鹽竈大神

発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号
志波彦神社
鹽竈神社　社務所
電話　〇二二（三六七）一六一一（代）
FAX　〇二二（三六五）五五三〇
http://www.shiogamajinja.jp/

奉祝
志波彦神社遷祀150年

御修復を終えた志波彦神社大鳥居

今夏も昨年同様に猛烈な暑さとなった。長引く残暑に秋の虫の音が重なった。虫達もさぞ閉口していよう。

猛暑は人の心身をはじめ、農業・漁業にも大きく影響を及ぼす。昨年の米の不作が発端となり、インバウンドによる訪日外国人の増加に伴う外食需要の拡大等も相まった「令和の米騒動」―。商品が並んでも通常の価格の倍であった。食が多様化しているとはいえ、私達日本人の主食はあくまで米。お米にありつけないのは非常に辛い。

ともあれ今年も秋を迎えた。はっきりと四季のある国は世界でも数少ない。有難いことである。

清少納言は「春はあけぼの」「夏は夜」「秋は夕暮れ」「冬はつとめて」として四季それぞれの魅力を『枕草子』に綴った。彼女の活躍した平安時代は現代よりも全体的に気温が低く、ある研究によれば、初期の嵯峨朝で最高気温摂氏二十五・九度、後期の院政期には約二十四度までしか気温が上がらなかったという。稲作の敵は猛暑だけではない。逆に冷夏の多かった平安時代も、農林水産業に深刻な影響があった可能性を先の研究は指摘している。

近年、自然災害が非常に多い様に思われる。身近な米不足も深刻であるが、それ以上に、何気ない日常をいとも簡単に奪う地震や台風・豪雨など災害の数々。被災された皆様に想いを致し、一刻も早く平穏無事な暮らしに戻られる様、心から神々に祈念するばかりである。稔りの秋は、あって当たり前、稔って当たり前ではない。

志波彦神社遷座記念祭並びに氏子崇敬会秋季大祭併せて遷祀一五〇年記念大祭

九月二十九日、志波彦神社遷座記念祭並びに氏子崇敬会秋季大祭が斎行されました。また、本年は明治七年（一八七四）に志波彦大神が岩切村（現在の仙台市宮城野区岩切）の鎮座地より鹽竈神社に遷祀されてから百五十年の大きな節目の年にあたることから、これを記念する祭典が併せて執り行われました。

志波彦神社略史

志波彦神社は、平安時代に編まれた「延喜式」に名神大社として記された格式高い延喜式内社（しきないしゃ）で、農業守護・国土開発・殖産興業の御神徳により広く崇敬されています。

御祭神の志波彦大神は、鹽竈さまと共に人々を教え導いたとされる神様です。鹽竈さまの由来を説く伝承の一つは、鹽竈明神が鯱に乗り塩竈においでになって人々に製塩の業を教え広められた際、藻塩を焼いて運搬する役を担われた藻塩場老翁（もしはのおじ）がすなわち志波彦大神であると伝えています。

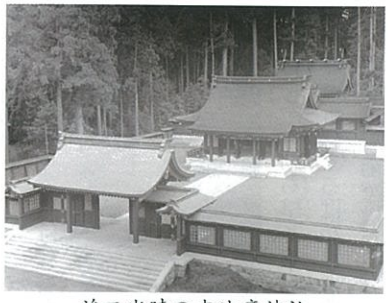
志波彦神社は、もとは岩切村の七北田川河畔に鎮座して冠川（かむりがわ）明神とも呼ばれました。冠川の呼称については、鹽竈明神は初め七北田川河畔に降臨された後に塩竈に赴かれたことから、七北田川を「神降（かんふり）川」と呼び、降臨された地に「神降明神」を祀って鹽竈神社の末社としたもので、冠川は神降川の発音が変化したものとの言い伝えがあります。

冠川神社景色図（明治13年頃）

古い歴史を持つ志波彦神社ですが、社伝によると天正三年（一五七五）の火災によって御社殿ほか宝物や記録類を失って一時は衰退し、江戸時代の延宝三年（一六七五）に伊達家により再興されたといいます。江戸時代の記録によれば、延宝頃に延喜式内社としての格式が人々に再認識されたことを契機に整備されたものとみられ、江戸時代後期には地誌や名所案内など諸書に紹介されるようになりました。

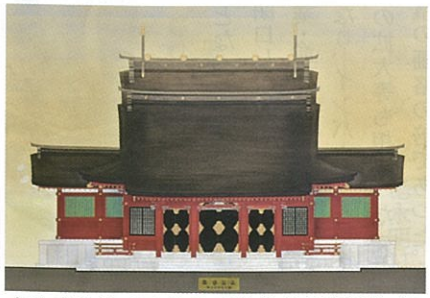
近代には、新たに定められた社格制度のもとで明治四年（一八七一）に国幣中社に列格しました。国幣社は、現在の県知事にあたる地方官らが祭典に参向する公的な神社でしたが、当時の志波彦神社は規模の大きな祭典を執り行うには境内が狭く、また御社殿の老朽化も進んでいたことなどから、明治七年（一八七四）十二月に御神縁の深い鹽竈神社に遷祀され、以後は別宮に合祭されました。

鹽竈神社への遷祀は、新たな御社殿の造営を前提としたものでしたが、莫大な費用を要することなどから容易には実現しませんでした。政府に対する熱心な働き掛けが続けられた末、志波彦神社の造営に対する国庫支出が認められたのは昭和八年のことです。翌年十月十日の工事始奉告祭を皮切りとして諸祭典と工事が進められ、昭和十三年の八月には付属施設の工事まで完了をみました。同年九月二十八日夜に遷座の儀式が執り行われ、翌二十九日には遷座奉祝祭が斎行されました。翌年からは、九月二十九日に遷座記念祭が斎行されています。


竣工当時の志波彦神社

志波彦神社の造営に費やされた費用は、昭和九年から同十二年度の国庫支出だけで計十六万一千五百円。計画は内務省の直轄で進められ、工事は東京社寺工務所が請け負っています。当時、神社局造営課の技師として設計等の監督にあたった角南隆（すなみ・たかし）は、多くの神社建築を手がけたことで知られています。

なお、旧来の社務所は二階建ての木造建築でしたが、志波彦神社の造営地に近接するため取り壊され、現在の社務所が新築されました。現社務所は、近代の和風建築として高く評価されています。


志波彦神社正面姿図（神社局造営課作成）

遷座祭（昭和13年9月28日）

志波彦神社大鳥居修復工事竣工

志波彦神社の大鳥居は、御社殿竣工の翌年十月から建造に着手され、昭和十五年五月に竣工したものです。鉄筋コンクリート造で、高さは九メートル余。その柱は大地の気脈を通すという意味から、耐震性を考慮したうえで中空の構造とされています。

近年では平成十六年に塗装工事がなされましたが、常に海からの風が吹きつける環境から近年は塗装の剥落等が目立つようになっていました。

この度の遷祀一五〇年記念事業として塗装と銅板葺替等の修復工事が実施され、約二ヶ月間に及ぶ工事を経て二十年ぶりに色鮮やかな姿を取り戻しました（表紙写真参照）。

修復工事に御尽力賜りました伊藤塗装店代表・伊藤三雄殿には、八月十一日に宮司より感謝状が贈呈されました。

新嘗祭（産業振興大祭）

来る十一月二十三日（勤労感謝の日）は、大神様のめぐみによって得られた一年の収穫を感謝する新嘗祭の日です。

この日、宮中では神嘉殿において天皇陛下御自ら新穀を神々へ奉られ、全国各地の神社でも盛大に神事が斎行されています。古来稲作など農耕を生業の基幹として来た我国において、もっとも重要な神事の一つです。

当社では去る五月十一日に御神田での御田植祭を斎行。九月十四日には抜穂祭を斎行し、大勢の氏子崇敬者に御奉仕いただき、立派に稔った稲穂を収穫しました。

十一月二十三日は、御両社において新嘗祭を斎行します。特に農耕と殖産の守護神である志波彦神社では、神楽「朝日子舞」を奉奏して大神様に収穫感謝の誠が捧げられます。

このほか当日は「初穂曳（はつほびき）」が実施されます。御神田の和稲・荒稲、さらに鮮魚・水産加工品・清酒・野菜・果物・菓子など多くの方々より奉納された地場産品の数々を台車に満載し、大勢の氏子たちの手で市中から境内まで奉曳したのち御両社の御神前に奉献いたします。

抜穂祭

裏千家献茶祭

十月五日（土）、裏千家献茶祭が鹽竈神社左右宮において斎行されます。

当日は、裏千家丹心斎千宗史若宗匠のお点前で濃茶・薄茶が点てられ、御神前にお供えされます。

茶道裏千家淡交会宮城支部（藤崎三郎助支部長）が主催する献茶祭は、十四代家元淡々斎宗匠と嘉代子夫人（仙台市出身）、また夫人の叔母であり養母であった伊藤幾久寿女史（号・宗幾）が昭和五年四月に献茶式を行われたことに始まります。

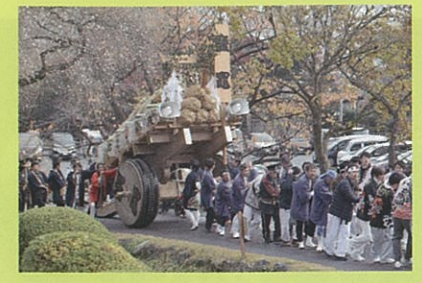
祭典後は社務所全館で茶会が催され、多くの門人が茶の湯を通じて交流を深めます。

初穂曳奉仕者募集　十一月二十三日

鹽竈神社奉仕会では、老若男女を問わず初穂曳の奉仕者を募集しております。

神社の御神田で収穫された初穂や地場産品を奉曳車に満載し、大勢の氏子たちの協力のもと御神前に奉献して大神様のめぐみに感謝する初穂曳。参加費は無料ですので、皆様お誘い合わせのうえ御参加いただきますよう御案内申し上げます。

初穂曳に関するお問い合せ・お申し込みは、社務所までお願い致します。



初穂曳

全国一の宮会総会

全国に鎮座する一の宮で組織される全国一の宮会は、相互の融和を深め、神社神道の高揚宣布をはかり、鎮座地域の活性化に貢献することを目的として活動を行っています。本年度は、当社にて八月二十二日から一泊二日の日程で総会及び移動研修会が開催されました。

初日は、御両社の正式参拝ののち大講堂において総会を開催。引続き宮城県多賀城跡調査研究所上席研究員の関口重樹氏を講師に招き「創建一三〇〇年を迎えた多賀城と塩竈」と題して講演会が開催されました。講演会終了後、バスにて移動し、此度国宝に指定された「多賀城碑」をはじめ、新たに復元された「南門」など国指定史跡多賀城跡を見学しました。

翌日の移動研修では、東日本大震災の震災遺構である仙台市立荒浜小学校を見学したのち、津波による社殿等流出後に見事復興された、名取市閖上に鎮座する閖上湊神社を正式参拝しました。

敬神婦人講だより

宮城県敬神婦人連合会総会

八月二十一日、竹駒神社参集殿を会場に、第六十一回宮城県敬神婦人連合会の総会が開催されました。

当日は、県内の各神社婦人会から約一五〇名が参加し、畠山副会長を議長として議事が進められ、各議案が協議・承認されました。

議事終了後は、フリーアナウンサー・朗読家で情報誌「りらく」編集長でもある渡辺祥子氏による「言葉の力、生きる力」と題した記念講演が行われました。

解散後、当社婦人講二十四名の参加者は、名取市震災復興伝承館等を見学したのち無事帰塩となりました。

一森会総会

去る八月二十七日、当社神職養成所卒業生の同窓会組織である一森会の総会が十七名の会員参加のもと開催されました。

本年は昭和二十九年の同会設立より七十年の節目にあたることから、総会に先立ち鹽竈神社左右宮において設立七十周年記念奉告祭が斎行されました。

続いて社務所大講堂にて総会を開催。各報告・協議が行われるとともに、設立七十年の記念として御両社への門帳の奉納が決定され、菅原会長より鍵宮司に目録が贈呈されました。

また、役員の改選も行われ新会長に渡邊市也氏(山形県・三十九期)、副会長には郡山宗典氏(宮城県・三十五期)・金井格氏(東京都・四十四期)・山口智久氏(北海道・四十五期)がそれぞれ就任致しました。

総会後は松島「ホテル大観荘」に移動して懇親会が開催され、会員相互の親睦を深め合いました。

國學院大學指定実習

九月二日より八日まで、國學院大學の学生を受け入れて指定実習を実施しました。

同大学の実習神社に指定される当社では、例年実習生を受け入れており、本年は神道文化学科四年生二名と三年生二名の計四名が社務所に泊まり込み実習に臨みました。

実習生らは、祭式や神道行法、奉製作業のほか、御社頭における参拝者への応対や祈祷奉仕などの実習に緊張感をもって熱心に取り組んでいました。

最終日には閉講奉告祭を奉仕し、実習が無事終了した旨を御神前に奉告しました。

ご結婚おめでとうございます

六月

福島県東松島市　佐藤　陵弥　石田　志穂
塩竈市　鈴木　俊達
秋田県　坂内みさき
牡鹿郡宮城郡　鈴木　良徳　三瓶舞李子
仙台市　小野寺寿治
白石市　佐藤　千佳
多賀城市　鈴木　貴大
仙台市　澤口　奈緒
多賀城市　鈴木　斗眞
仙台市　奥脇　華都
富谷市　白木澤長浩
加美郡　澁谷　友里

七月

塩竈市　千田　賢弥
福島県　今野紗緒里

八月

塩竈市　松谷　純
柴田郡　吉野　亜紀

（敬称略）

参拝記録

六月

四日　奈良県・大神神社職員研修旅行　三十九名
五日　全国芽生会連合会　九名
大河原・佐浦ゆかりの会　十一名
十三日　茨城県・御岩神社宮司　大塚真史殿　ほか五名
十五日　國學院大學総務部人事担当部長　謡口秀見殿
（一財）國學院大學院友会経理課長　吉村透殿
二十日　長野県・鹽竈神社宮司　大澤明三殿　ほか五名

七月

五日　国際ロータリークラブ二五二〇地区ガバナー　佐藤剛殿　ほか八名
七日　岩手県・一関市藤沢町第八区自治会及び同農家組合　二十七名
八日　岩手県・鼬幣稲荷神社宮司　古川智之殿　ほか十八名

八月

二十二日　全国一の宮会会長　新木直人殿　ほか四十一名
二十七日　一森会会長　菅原正明殿　ほか十六名

東北式内社顕彰会

総会及び設立十周年記念講演会開催

当社内に本部を置き、延喜式内社の啓蒙・興隆を目的に活動する東北式内社顕彰会は九月十日、今年度の総会を開催しました。

当日十八名の参加者は、陸奥国の式内社百座を祀る多賀城市市川の陸奥総社宮を正式参拝。社務所において総会を開催した後、東北歴史博物館へと移動し、延喜式の研究で知られ『延喜式神名帳の研究』等の御著書もある西牟田崇生氏を講師に御招きして講演会を開催しました。

平成二十四年に設立された当会は、一昨年に十周年を迎えました。

講社大祭の御案内

来る十月十二日(土)・十三日(日)・十四日(月)の三日間、講社大祭を斎行致します。

市内はもとより、県内そして全国各地の講員の方々が大神様に報恩の誠を捧げ、家内安全・商売繁盛を祈願します。

境内では三日間にわたり神楽が奉納され、大勢の参拝者で賑わいます。

神楽奉納団体

十二日　城生野神楽
十三日　樫崎法印神楽保存会
十四日　塩竈神楽保存会
（それぞれ午前九時より午後二時まで舞殿にて奉納）

神宮大麻頒布

十二月二日（月）より約十日間にわたり、当社神職が塩竈市内各戸を訪問して伊勢神宮の御神札「神宮大麻」と令和七年の神社祭事暦、御神像（お正月さま）をお頒ち致します。お正月を迎えるにあたり氏神様のお札と併せ神宮大麻を奉斎し、朝夕に拝して神恩に感謝いたしましょう。神棚がない場合は、目線より高い所にお祀りください。

なお、年内に御不幸があった場合でも、服忌の期間（最長で十日）を過ぎれば神棚のお祀りを再開されても差し支えありません。

大晦日大祓式

十二月三十一日（火）午後三時より、当社祓所において大晦日大祓式を斎行致します。

半年間の日常生活における穢れを祓う神事です。ぜひ御参列頂き、清々しく新年をお迎えください。

また、当日に御参列出来ない方は、十二月より社頭にて形代をお頒けしておりますので、事前にお受けになりお納め下さい。

国家安泰
五穀豊穣
家内安全
安産祈願
海上安全
大漁満足

祭事暦（十月から十二月まで）

毎月一日　朔日祭
〃　曲木神社月次祭
六日　御釜神社月次祭
十日　鹽竈神社月次祭
二十九日　志波彦神社月次祭

十月五日　裏千家献茶祭
十二日～十四日　講・社大祭
十七日　神嘗奉祝祭

十一月三日　明治祭
十五日　七五三
二十三日　新嘗祭・初穂曳

十二月一日　嘉津良比祭
三十一日　大祓式・除夜祭

博物館だより

博物館では、九月九日から十三日までの五日間の日程で博物館実務実習を実施しました。今年度は、東北学院大学、東北生活文化大学、日本大学より計五名の実習生が参加し、資料の取り扱いなどを学びました。

奉納御礼

◆金参百萬円也
塩竈市　門間　光子　殿

◆曲木神社の柏槙の老木幹の保護柵
籬神社奉賛会
副会長　櫻井　新一　殿

◆保護柵の塗装及び同神社鳥居二基の塗装
塩竈市
株式会社博光社
代表取締役　松本　尚己　殿

曲木神社の社名は、鎮座地の籬島に曲がりくねった柏槙（びゃくしん、針葉樹の一種）の木が自生したことに由来すると伝えられ、現在も根株が残されています。このたび、この根株の保護柵が奉納されました。

◆仙台七夕七つ飾り
仙台市　熊谷　律子　殿

文芸欄

まとひつく秋の蚊羽音まで痒し　今田　須美子
人生の余韻とは何小鳥来る　上田　由美子
七夕や子がロずさむ流行歌　佐藤　光江
点滅の信号の先天の川　菅原　和子
夏帯の桔梗一輪フレンチ店　佐藤　悦子
梅雨の雷パッチワークの卓布かな　鈴木　ゆう子
相槌も聞き上手なり秋ざくら　齋藤　豊子
恋しかり兄の育てし胡瓜かな　池田　智恵子
海上の渡御供奉船の大漁旗　今野　紀美子
千賀の浦望む境内蟬しぐれ　及川　源作

銅板奉納者芳名

多くの方々より銅板を奉納いただきました。（敬称略）

六月
山梨県　齋城　千春　他一一四名

七月
沖縄県　伊藤　千尋　他一一六名

八月
大阪府　松浦　洋憲　他一二七名

人事異動

退職
七月十五日付
出仕　狩野　瑞季
七月十九日付
巫女　徳永明日香

余芸

暑かった夏も終わり、日暮れが早まり秋の訪れ、そしてすぐさま冬の足音が。
今夏に巻き起った米騒動。実りの秋を迎え大豊作でありますように…　（友）